

from

令和5年9月発行

ほうかつ



特集!

榎葉町高齢者福祉計画・障がい者計画を読み解く ～幸せを実感できるまちを目指して～

榎葉町では“みんなで支え合い 幸せを実感できるまち”を基本理念として、令和3年度から令和5年度の3か年計画として『第8期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画』、令和3年度から令和8年度の6か年計画として『第3期障がい者計画』が策定されています。今回は、両計画を読み解きながら、この3年間でどのように計画が進められてきたのか、榎葉町における福祉の現状と課題、そして令和6年度からの次期計画や中間評価に向けた今後の動きについてご紹介します！

『第8期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画』から見えてきた現状と課題

課題

ひとり暮らし高齢者等の見守り・声かけ支援が不足

介護者の不安への相談対応が必要

移送サービスの不足

外での楽しみがない

今期計画策定に向けた事前の町民アンケートより

要支援・要介護認定者が在宅生活の維持に必要と感じるサービスとして「見守り、声かけ」「介護者のつどいの場（相談できる場所）」が9.4%と最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が8.7%を占めました。

また、「外での楽しみがない」と回答した高齢者は27.4%と最も高い割合を占める結果となりました。

第8期
高齢者福祉計画
及び
介護保険事業
計画

『第3期障がい者計画』から見えてきた現状と課題

課題

相談窓口の周知が徹底されていない

災害時避難を手伝う体制の整備が不十分

日中活動や生活訓練の場が必要

今期計画策定に向けた事前の町民アンケートより

障がい者が暮らしやすいために必要なこととして「相談窓口の体制の充実や、手続きなどの簡素化」が53.8%と最も高く、「災害や緊急時に避難を手伝う体制の整備」も32.3%を占めました。

また、地域で生活するための支援として必要なものでは「日中活動や生活訓練の場」が20%を占める結果となりました。

第3期
障がい者計画

上記の町民アンケートのほかに、地域共生ケア会議、住民や福祉関係事業所から寄せられた意見、高齢者福祉計画・障がい者計画の施策評価等から、高齢者・障がい者の在宅生活を支えるうえで「相談支援体制の強化」「在宅サービスの種類・提供体制の不足」「社会参加や生きがいを感じられる活動の場」という共通課題が見えてきました。これらの課題解決のために、町では基本施策を設け、関係機関と連携して、右の図のような様々な取組みを展開しています。

高齢者・障がい者福祉の共通課題と現在の取組みについて

共通課題①

相談支援体制の強化

取組その1!

地域包括支援センターの強化

相談



地域包括支援センター

Point!

令和3年度、地域包括支援センターに1名人員を増やして相談体制の強化を図り、高齢・障がい・生活困窮等の分野を問わず、全世代を対象とした相談対応を行っています。

共通課題②

在宅サービスの種類・提供体制の不足

取組その2!

在宅サービスを考えるワーキンググループの開催



Point!

町、地域包括支援センター、関係機関が集まり、町独自の在宅福祉サービスの充実に向けて登録者の精査、対象者拡大の検討等を行い、町民の皆さんのよりよい在宅生活に向けて、利用しやすい福祉サービスの協議を行っています。

共通課題③

社会参加や生きがいを感じられる活動の場

取組その3!

誰もが参加できる機会づくり
～福祉農園の取組み～



Point!

障がいの有無に関係なく誰もが参加できる機会づくりとして福祉農園が開園しています。今年度は障がい者施設利用者の皆さんと一緒に野菜の苗植えや収穫を行いました。

今後の課題と次期計画策定に向けて

両計画の策定内容に基づき、様々な取組みが進む一方で、下記のような今後の課題も見えてきました。令和6年度からの次期計画が策定（中間評価）されるにあたり、各計画策定委員会を通じて、施策の評価や目標値の点検・見直し等の協議が現在進められています。

課題

現状に即した在宅サービスの強化

課題

有償ボランティアの導入検討
(子育て支援・移動支援)

課題

障がいのある方も気軽に通える場



榎葉町では、計画の推進にあたり「PDCAサイクル」の手法を用いた施策評価を行っています。Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の循環を通して現在の計画を定期的に点検しながら、「出来ていること（成果）」と「出来ていないこと（課題）」を明らかにし、基本理念である“みんなで支え合い 幸せを実感できるまち”の実現に向けて今後も計画を推進していきます。

高齢者・障がい者の総合相談窓口

TEL:0240-25-4155 FAX:0240-25-4156
〒979-0604 榎葉町大字北田字鐘突堂5-5（榎葉町保健福祉会館3F）
Email: naraha-houkatsu@car.ocn.ne.jp

お気軽にご相談ください。



地域づくりの
今!

コロナ禍で“深化”する地域ミニデイ!

～生活支援コーディネーターから見た変化とは～



生活支援
コーディネーター
小林

地域ミニデイは、地域の皆さんが集会所に集まり、介護予防体操、レクリエーション、茶話等を通して互いに交流を深める身近な通いの場です。

コロナ禍により開催が中止されたこともありましたが、皆さんで感染症対策を徹底し「どうすれば続けられるか?」を考え、試行錯誤しながらミニデイを継続してきました。今回は、コロナ禍でミニデイの活動がどのように深化して(深まって)きたのか、その様子をお届けします!

深化 その1

顔の見える関係の深化 ～つながる行政と住民～

保健師による血圧測定&健康相談もミニデイではおなじみとなりました。「保健師さんに測ってもらおうと血圧安定するの不思議だな」「コロナワクチンのことを聞きたいんだけど」等の気さくな会話が聞こえてきます。また、防災に関する出前講座も各地で開催され、ミニデイでも行政がより身近に感じられる関係になってきています。



今日も血圧
順調♪

深化 その3

福祉理解の深化 ～認知症や権利擁護がより身近に～

地域包括支援センターによる認知症出前講座や、毎月発行の本紙『fromほうかつ』の紹介を通して、皆さんからは、認知症や成年後見制度をはじめとした権利擁護への質問が寄せられることが増えてきました。対面で話し合うことを通して、今までどこか遠くに感じていた制度への理解が進み、福祉を身近に感じる方が増えてきています。

認知症への
理解が
深まった!



深化 その2

地域とのつながりの深化 ～13年ぶりの夏祭り～

今年は、各地で「震災後初」「13年ぶり」の夏祭りが開催されています。ミニデイでも行政区と協力して花飾りづくりを行い、久々の開催となる夏祭りを盛り上げました。地域行事の復活を通して、ミニデイと地域とのつながりがより深まってきています。



色とりどりの
花飾り



深化 その4

新しいつながりの深化 ～震災後の住民交流～

ミニデイでは、住民同士の新しいつながりも増えてきています。ある地区のミニデイでは、コロナ禍で引きこもりぎみのご近所さんにミニデイ参加者から声をかけたところ、一緒に通うようになった方がいます。また、看護師や薬剤師を目指す大学生がミニデイを訪れ、地域医療に関する意見交換を行うなど、新しい交流が生まれています。



檜葉の良
いところ
も
紹介しました

fromほうかつ ころむ

センター長 警城 美樹



「準備万端」

2週間前の話。いつものように“寝る前のストレッチ”を行いました。そしていつものように開脚前屈した途端・・・太ももの裏がブチッと鈍い音。そう、肉離れです。本当に音になるんですね

ただ、ストレッチしただけなのに・・・たいして曲げてもないのに・・・情けない(-_-;)

今では足を伸ばした時に少し痛みを感じる程度ですが、最初にマッサージを行うようにしています。まずは身体に「はじめるよ～」と気づかせるために。

何事も「準備万端」が大事!と思い知った出来事でした。



～みんなのつぶやき～



主任介護支援専門員
兼認知症地域支援推進員 江尻

スマホで動画を流しながら
リンパストレッチをほぼ毎晩続けて
いる成果が出てきています。



確実に身体が
柔らかくなっている!!



社会福祉士 渡邊



～渡邊の菜園日記～

大きくなったトマトの収穫率
4/7でした。ぎりぎり青虫より多く
食べることができました。
(来年もがんばります)



生活支援コーディネーター 小林

この夏、町内各地の夏祭りに
おじゃましました。
祭りが地域をつなぎ、
世代をつなぐのだと
感じました♪



素朴な疑問コーナー



Q. 地域ミニデイは、誰でも参加できるの?

A. おおむね65歳以上の方が参加していますが、地域に暮らす誰もが参加できる通いの場です。現在、町内各地で活動中ですので、ご興味のある方は最寄りのミニデイまたは生活支援コーディネーターまでお気軽にお声がけください!



Point! コロナ禍で活動を制限されながらも、地域ミニデイは続いてきました。「ミニデイがあるからご近所さんと会える」と楽しみにしている人が多いと感じます。新しいつながりや外部交流も増えてきており、ミニデイは形を変えながら“深化”し続けています。